

ツノアカヤマアリ及び其近似種の分布に就いて

寺 西 暢

ヤマアリ属 *Formica* の分布に就いてはこれまで私は興味を持つて注意して来た。何れ之れに關する資料をまとめて公表の機を得たいと思ふが、此所には單に、ツノアカヤマアリ *Formica (Coptoformica) exsecta* var *fukaii* Wheeler と其の近似種の分布に關して記して見やうと思ふ。

Formica の分布の概略

新舊兩北洲にまたがつて分布して居て、南方に下るに従て其の種類は減少し分布は稀薄になつて来る。僅少のものは東洋洲に及ぶものもある。日本領土に就いて考へて見ても既知の12種(亞種、變種を含む)中其の大部分は本洲中部山嶽或はより北方に於て其の南下を阻止されて居り、之れを突破して關西或はより南方の地に及ぶものは僅かに亞屬 *Serviformica* の二種が知られて居るに過ぎなかつたのであるが、近頃亞屬 *Coptoformica* の *fukaii* が關西地方に分布する事を知り得た。*Serviformica* は最も南下性の強い種を含んで居て南はスマトラに及ぶものがある。我領土では臺灣に一種が居る。

ツノアカヤマアリの分布

原種に當る *Formica (Coptoformica) exsecta* は中部及び北歐洲、アルプス、コーカサス、シベリア、アルタイ山脈、滿洲に分布して居るが、日本産の var. *fukaii* は北は北海道、南は本州中部山嶽が從來知られて居る分布地方である。樺太及朝鮮にはまだ *Coptoformica* の如何なる種類も知られて居ない。今後或は發見されるかも知れない種類が果して原種の *exsecta* であるか又は var. *fukaii* であらうか私は大きな興味を持って其の發見を期待して居る。

var. *fukaii* の分布の南限は從來本州中部山嶽であらうと考へられて居たが、數年前京都貴船の奥、丹波との境附近で發見されたこの蟻の標本を關西昆蟲學會例會の席上で今西錦司氏から提示されて驚いた。之れに力を得て1931滋賀縣の比良山を精査して、東斜面(6000 m)に之を得た。續いて大臺ヶ原山の北麓五色温泉附近(1000 m)に發見した。巢は見付からなかつたが、竹の葉腋の介殼蟲に集つて居た。尙最近大阪博物學會の博物展覽會に出品された大阪池

田師範學校の標本中に兵庫縣六甲山産の一職蟻を見、又福貴正三氏採集の大阪府下葛城山頂上 (850 m) 産の數頭の職蟻を検するに及んで全く啞然たらざるを得なかつた。

Formica の 亞 屬

日本領土産の *Formica* は 4 個の亞屬を含んで居る。之等の識別は次の通りである。

- 1 — 全体黒色乃至黒褐色、体は細長にして、頭及び腹は夫々胸部よりも僅かに廣し……………Subgen. *Serviformica*
頭、胸、腹柄、第一腹節の前面或は之等の中の少なくとも二個所は黄赤色乃至褐赤色を呈す……………2
- 2 — 額片の前縁の中央凹入す……………Subgen. *Raptiformica* (圖版Fig. 1 参照)
額片の前縁の中央圓し……………3
- 3 — 頭の後縁は深く凹入す……………Subgen. *Coptoformica* (圖版Fig. 2 参照)
頭の後縁は殆んど平直か或は稍圓し……………
……………Subgen. *Formica* (圖版Fig. 3 参照)

近 似 種 と の 分 布 の 比 較

Subgen. *Serviformica* に就いては私の調査は未だ甚だ不十分なものがある、で此所には之れを除外し、餘りの3個の亞屬について比較して見る。

1. 樺太のみより (本邦領土中には) 知られて居るもの
Formica (Formica) rufa Linnaeus
F. (F.) rufa subsp. *pratensis* De Geer
E. (F.) rufa var. *truncicoro-pratensis* Forel

此中第3のものは朝鮮にも發見された。

1. 樺太北海道に知られて居るが本州には産しないもの
Formica (Formica) truncorum Fabricius
3. 本州中部山彙を分布の南限とするもの
Formica (Formica) truncorum var. *yessensis* Forel
Formica (Raptiformica) sanguinea subsp. *fusciceps* Emery
4. 本州中部山彙を越へ關西地方に及ぶもの
Formica (Coptoformica) exsecta var. *fukaii* Wheeler

之れによつて見ると (*Serviformica* は別として) 胸部の赤い *Formica* ではツノアカヤマアリが最も南に下り得る性質を持つ事が明瞭である。

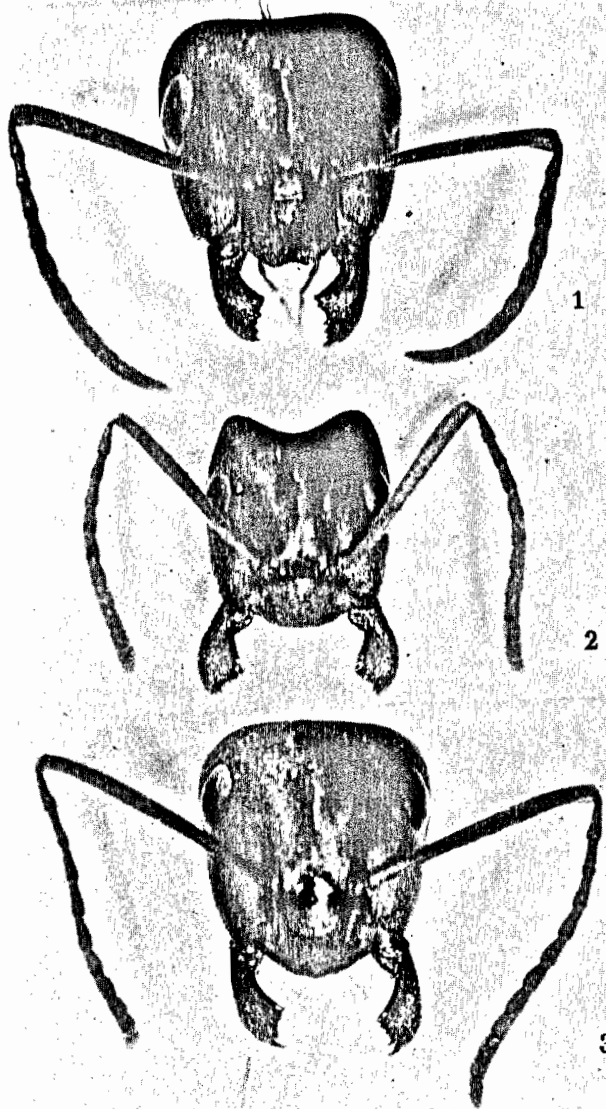


Fig. 1. *Formica (Raptiformica) sanguinea fusciceps* Emery
Fig. 2. *Formica (Coptoformica) exsecta* var. *fukaii* Wheeler
Fig. 3. *Formica (Formica) truncorum* var. *yessensis* Forel

將來の發見地に對する豫想

前記の如くツノアカヤマアリの畿西地方に於ける分布の尙相當濃厚な點から見れば、今少し西南方の地に新産地が發見されるであらうと推測して差し支へない様に思ふ。中國山脈は最も有力な候補地である。唯鳥取縣の大山及び山口縣と島根縣との境近くの高根附近での私の調査の範圍ではまだ見付からない。

〔お 願〕

採集の行渡るにつれて昨日まで我々が考へて居た事は今日之れを改めねばならん始末であつて、日本の蟻の分布調査も *Formica* 一つについても前途今尙は甚だ遠いものがあるから讀者諸氏の御援助を切望する。*Formica* 屬(其他のものでも勿論結構)のものを御採集の節は其の標本の御寄贈を得たい。

Formica (s. st.) と *Coptoformica* とは針葉樹の落葉或は禾本科の雜草等で山形の巢を地上に營む性質がある。*Serviformica* と *Raptiformica* とは此の性質がないが *Raptiformica* は所謂奴隸使役をやり、*Serviformica* が其の奴隸になる。

キマダラルリツバメの幼蟲を何所に探す可きか

寺 西 暢

キマダラルリツバメは天然記念物に指定される程の珍蝶ださうであるが我々は蝶其物よりも寧ろその幼蟲の習性を知る事に、より多くの魅力を感じる。

Alphnaeus の幼蟲が蟻と密接な關係に在る事は既に明らかであり、臺灣では此屬の三種がシリアゲアリ *Crematogaster rogenhoferi* と關係があり夫々アカメガシハ、クサギ、タカサゴギクの葉上に發見された報告がある(高橋良一 1929)

して見れば内地のキマダラルリツバメの幼蟲も亦蟻を手掛りとして蟻の盛んに昇降する植物を注意する事が先ず發見の近道であらう。蟻の昇降しない植物へは決して産卵しないと云はれて居るものすらある。植物を昇降する蟻は極めて多いが *Crematogaster* は内地産八種である。所が之等何れもが臺灣の *rogenhoferi* の様に樹枝に球狀の巢を造つたり又 Tent を造る性質がない、多くは樹木の表皮下或は枝幹に住むが又土中に巢を營むものもある。Tent を造る事で有名なものではトビイロケアリ *Lasius niger* 及び此亞、變種數種が居る。主に土中に營巢するが一種は樹木の表皮下のみで造巢するものがある。